

平成26年11月26日

CLPについて

今月の22日に長野県北部で、震度6弱の地震が発生しました。幸いなことに死者は出なかったようですが、家屋が34棟全壊したそうです。まだ余震が続いており、今から寒さが厳しくなりますので、1日も早く復旧して欲しいと思います。

本日はCLPについてお話をしたいと思います。

CLPはClub Leadership Planの略で、この目的は、各奉仕部門に沿って活動を遂行することにより、ロータリーの目的を追求する効果的なクラブを創り出し、ロータリーの強化を図ることである。

CLPは、世界的に会員数の減少により、RIが危機感を抱いて、2004年11月に開催されたRI理事会で採用が協議された。

CLPの言いたいことは、クラブの枠組みの中で、旧弊的な変化のない沈滞ムードの集まりから、存在価値のある活性化集団に変化させたいというものであり、そのためには、大規模クラブでも、また、小規模なクラブでも活動できる「ロータリーの運営をスリム化し」そして「委員会を5つまで減らしても良い」ということです。時代に合った、各クラブ合った形に体制を変えていっても良い、というものです。

宇部ロータリークラブでも2006年～2007年度の山本徹会長の時に採用が決定され、翌年度の藤井良康会長の時から実施され、現在のような組織になっています。

効果的なクラブとは、

1. 会員基盤を維持、拡大している。
2. 地元地域社会並びに他の国々の地域社会のニーズを取り上げたプロジェクトを実施、成功させている。
3. 資金の寄付及びプログラムへの参加を通じて、ロータリー財団を支援している。
4. クラブの枠を超えてロータリーにおける奉仕できる指導者を育てている。

となっています。

CLPを実施するには、元、現在、次年度のクラブ役員が次のことを行うことを奨励しています。

1. 効果的なクラブの要素に取り組む戦略計画を立案する。

宇部クラブでも戦略計画委員会があります。

2. クラブの戦略計画と合致した年間目標を設定する。

3. クラブ協議会を開催し、ロータリーの活動に関する情報を伝える。また、地区の情報を伝えて貰うため、ガバナー補佐の出席をお願いする。
4. クラブ役員、クラブ会員、地区役員との間に明確なコミュニケーションが確実に図られるようにする。
5. 戦略計画を実施するため、指導者の継続性を確保する。
委員会によっては、委員長は1年だけでなく、2年、3年と継続することによって、ある年度から次の年度への移行が容易になる。
6. クラブ会員間の親睦をさらに深めるような機会を提供する。
7. 会員全員がクラブのプロジェクトや業務に活発に関与するようにする。
8. 新入会員、現会員の研修会を実施する。

以上を要約しますと、ロータリークラブは「会員全員が、クラブの活動を分担し、委員長等の役につくことにより一生懸命に活動しているうちに、クラブに愛着が湧いてくる」というものではないかと思います。

これで本日の会長の時間を終わります。